

2020年に向けた東京都の取組（素案）

－大会後のレガシーを見据えて－

平成27(2015)年11月

東京都

Legacy & TOKYO



目次

- | | | |
|---|--|-----|
| 1 | 競技施設や選手村のレガシーを
都民の貴重な財産として未来に引き継ぎます | p5 |
| 2 | 大会を機に、スポーツが日常生活にとけ込み、
誰もがいきいきと豊かに暮らせる東京を実現します | p19 |
| 3 | 都民とともに大会を創りあげ、
かけがえのない感動と記憶を残します | p25 |
| 4 | 大会を文化の祭典としても成功させ、
「世界一の文化都市東京」を実現します | p33 |
| 5 | オリンピック・パラリンピック教育を通じた人材育成と、
多様性を尊重する共生社会づくりを進めます | p39 |
| 6 | 環境に配慮した持続可能な大会を通じて、
豊かな都市環境を次世代に引き継いでいきます | p45 |
| 7 | 大会による経済効果を最大限に生かし、
東京、そして日本の経済を活性化させます | p51 |
| 8 | 被災地との絆を次代に引き継ぎ、
大会を通じて世界の人々に感謝を伝えます | p63 |



目的

東京2020大会後のレガシーを見据えた 東京都の取組の方向性を明らかにすることにより

- 大会を通じて価値あるレガシーを残していくための取組を、2020年に向けて着実に進めていきます
- 大会に向けた東京都の取組を明らかにすることにより、都民の皆様が大会に関わりを持ち、参加していただくきっかけづくりとします

東京2020大会の成功はもとより、大会後の東京と日本に、いかにレガシーを残していくかが重要です。

大会を通じて、成熟した東京の姿を世界にアピールするとともに、大会を東京、そして日本がさらに躍進するための起爆剤にしていかななくてはなりません。

そして、価値あるレガシーを残すために何をなすべきか、常にそのことを考え、大会開催に向けた取組を進めていく必要があります。

来年にはリオデジャネイロ大会が開催され、その3年後にはラグビーワールドカップ2019が、そしてその翌年にはいよいよ東京2020大会が開催されます。

大会を東京、そして日本の将来にとって実りあるものとしていくため、ラグビーワールドカップ2019に向けた取組と一体となって、2020年に向けてレガシーを見据えた様々な取組を着実に進めていきます。

大会成功の鍵は、多くの都民の皆様が大会に関わり、自分たちの大会だと感じていただくことです。

レガシーを見据えた8つの取組の方向性を明らかにすることで、大会に向けた東京都の取組を広く知っていただき、都民の皆様が大会に関わりを持つきっかけとなることを願っています。

今後、都民の皆様のご意見を踏まえ、さらに検討を進め、今年中にレガシーの実現に向けた都の具体的な取組を取りまとめしていきます。



東京に 東京2020大会を起爆剤として、成熟都市・東京をさらに発展させ、 ゆとりある真に豊かな都民生活を実現します

[主な取組]

- スポーツの力で誰もがいきいきと暮らせる東京を実現
- 世界一の文化都市東京の実現
- オリンピック・パラリンピック教育による人材の育成と多様性を尊重する共生社会づくり
- 東京の豊かな都市環境を次世代に継承
- 東京の経済の活性化

日本へ オールジャパンで大会を成功に導き、経済の活性化や 被災地復興の後押しなど、大会の効果を日本全国へ波及させます

[主な取組]

- 日本各地と連携した大会開催気運の醸成や文化イベントの展開
- 競技会場のある他都市や被災県等と連携した円滑なボランティア活動に向けた取組の推進
- 日本各地と連携した産業、観光の活性化
- 東京産をはじめとした国内産農林水産物や特産品の魅力発信と利用促進
- 被災地でのライブサイトの開催や文化、スポーツ交流の推進と、事前キャンプ誘致の共同PR
- 被災地の早期復興に向けた支援

そして世界に向けて

水素社会の実現に向けた先進的な取組や、東京、日本の高度なテクノロジー、東京のブランド力などを、東京が日本のショーウインドウとして世界に向けて発信するとともに、大会を機に世界との交流をさらに深めていきます

[主な取組]

- 大会のレガシーを有効活用した国際スポーツ大会の開催と、スポーツを通じた国際交流の推進
- リオデジャネイロ大会のジャパンハウスでの東京、日本の魅力発信
- 文化プログラム等を通じた世界への文化の発信
- グローバル社会で活躍できる国際的人材の育成
- 多言語対応の充実など外国人にも優しい共生社会の実現
- 水素エネルギー技術や中小企業の優れた技術、製品、サービスを世界に発信
- 世界への東京ブランドのPR



パラリンピックを通じて 誰もが暮らしやすい東京を実現します

- 東京は、世界で初めて2回目のパラリンピックを開催する都市として、障害のある人もない人も互いに尊重し、支えあう共生社会を実現するなど、大会で確かなレガシーを残していかなくてはなりません。
- パラリンピックは、障害者がスポーツに親しむきっかけとなるだけでなく、ノーマライゼーションの考え方を社会に定着させ、障害者がその能力を生かし、自らの行動を決し、そして夢を追い続けることができる社会づくりにつながるなど、社会に変革をもたらす力があります。
- このような大きな力を持つパラリンピックの成功がなければ、東京2020大会の成功はありません。
- 大会の成功に向け、都市のバリアフリー化や心のバリアフリーの浸透など、ハード・ソフト両面での取組を全力で進め、障害の有無にかかわらず誰もが暮らしやすい東京をつくりあげていきます。

パラリンピックに向けた主な取組

- 大会に向けたバリアフリー化の推進
- アクセシビリティ・ガイドラインの策定と活用
- 障害者スポーツの普及啓発、場の整備と人材育成、競技団体の強化
- パラリンピックの魅力を体感できるプログラム「NO LIMITS CHALLENGE」の展開
- 障害者スポーツやパラリンピックに理解の深いボランティアの育成と、障害のある人もない人もボランティアに参加しやすい環境づくり
- アール・ブリュットの普及推進など、あらゆる人が文化を享受できる社会基盤の構築
- オリンピック・パラリンピック教育を通じた障害者への理解促進と、心のバリアフリー、情報のバリアフリーの推進